

日本国憲法における人権保障に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 基本的人権は、天皇からの恩恵として、国民に与えられたものである。
2. 国は、法律の根拠があれば、基本的人権に対していかなる制限を加えることも許される。
3. 国民は、基本的人権を濫用してはならず、常に公共の福祉のために利用する責任を負う。
4. 基本的人権は個人の権利であるから、会社などの法人には保障されない。
5. 基本的人権が私人同士の間で侵害された場合、裁判所は、憲法の基本的人権の規定のいずれについても、私人間の関係に直接適用して紛争を解決する。

正答 3

次のことわざ・成句のうち、意味が妥当なのはどれか。

1. 瓢箪ひょうたんから駒：思いもよらないことが現実にかかること。
2. 魚心あれば水心：互いに近くにいながら、心が離れてしまっていること。
3. 藪やぶをつついて蛇を出す：身に災いが及ぶ前に、災いの元を取り除く。
4. 尻馬しりうまに乗る：弱い立場にある人の味方になる。
5. 二匹目の泥鰌どじょうを狙う：これまで誰も用いなかった方法によって、大きな成果を得ようとする。

正答	1
----	---

A～Gの7人が写真撮影のためにカメラの方を向いて横一列に並んだ。次のことが分かっているとき、確実に言えるのはどれか。

- ・ AはBよりも左におり，間には4人いた。
- ・ CとDは隣り合っていた。
- ・ CとFの間には2人いた。
- ・ DとEの間には3人いた。

1. AとDの間には1人いた。
2. AとFは隣り合っていた。
3. BとCは隣り合っていた。
4. BとGの間には1人いた。
5. CとGの間には1人いた。

正答	5
----	---